

## 危険物取扱者 [乙種・性消(第4類危険物)・正誤(7)]

---

<一問一答>

正しい文章には○を、誤っている文章には×を、それぞれ記号で答えよ。

- (1) 軽油の引火点は常温以下である。【 】
- (2) 第4類の危険物を取り扱う際は、鉄びょうのついた靴は使用しない。【 】
- (3) 二硫化炭素は燃焼すると有毒が二酸化硫黄を発生する。【 】
- (4) アセトアルデヒドは熱や光により分解し、メタンや一酸化炭素を発生する。【 】
- (5) ガソリンは過酸化水素や硝酸と混合すると、発火の危険性が低くなる。【 】
- (6) ベンゼンは特有の芳香を有している。【 】
- (7) トルエンは無色透明の液体である。【 】
- (8) アセトンは揮発しやすい。【 】
- (9) エタノールは、水にどんな割合でも溶け合う。【 】
- (10) 第4類のアルコール類は炭素数が増加すると沸点が低くなる。【 】
- (11) 第2石油類には15℃の温度で凝固するものがある。【 】
- (12) 灯油は液温20℃で、容易に発火する。【 】
- (13) キシレンは無色の液体である。【 】
- (14) 重油は水より重い。【 】
- (15) 動植物油類において、乾性油の方が不乾性油よりも自然発火しやすい。【 】

## 危険物取扱者 [乙種・性消(第4類危険物)・正誤(7)]

<一問一答>

正しい文章には○を、誤っている文章には×を、それぞれ記号で答えよ。

- (1) 軽油の引火点は常温以下である。 【×】  
第2石油類。引火点は21℃以上70℃未満。
- (2) 第4類の危険物を取り扱う際は、鉄びょうのついた靴は使用しない。 【○】  
鉄びょうのついた靴は使用しない。火花が生じやすくなるため。
- (3) 二硫化炭素は燃焼すると有毒が二酸化硫黄を発生する。 【○】  
燃焼すると有毒な二酸化硫黄を発生する。
- (4) アセトアルデヒドは熱や光により分解し、メタンや一酸化炭素を発生する。 【○】  
熱や光に対して不安定で、分解される。メタンと一酸化炭素になる。
- (5) ガソリンは過酸化水素や硝酸と混合すると、発火の危険性が低くなる。 【×】  
第6類の危険物との混合。発火の危険性が高くなる。
- (6) ベンゼンは特有の芳香を有している。 【○】  
特有の芳香を有している。
- (7) トルエンは無色透明の液体である。 【○】  
無色透明の液体である。
- (8) アセトンは揮発しやすい。 【○】  
高い揮発性を有する。
- (9) エタノールは、水にどんな割合でも溶け合う。 【○】  
水にどんな割合でも溶け合う。
- (10) 第4類のアルコール類は炭素数が増加すると沸点が低くなる。 【×】  
炭素数が増加すると沸点が高くなる。
- (11) 第2石油類には15℃の温度で凝固するものがある。 【○】  
純度の高い酢酸は17℃以下で氷状に結晶化する。氷酢酸。
- (12) 灯油は液温20℃で、容易に発火する。 【×】  
引火点は40℃以上なので、容易に引火することはない。
- (13) キシレンは無色の液体である。 【○】  
無色の液体である。
- (14) 重油は水より重い。 【×】  
比重0.9から1.0で、水よりわずかに軽い。
- (15) 動植物油類において、乾性油の方が不乾性油よりも自然発火しやすい。 【○】  
乾性油の方が自然発火しやすい。